

高次脳機能障がい在宅生活支援研究事業(当事者が在宅で安心して暮らせるために)
事例検討会アンケート結果(アンケート総数:31枚 延べ参加者数:54名)

1 あなたの職種又は立場は？

PSW 1、OT 11、ST 5、ケアマネ 3、相談支援専門員 1、PT 2、MSW 1
CP 1、DR 1、サービス管理責任者 1、行政 1;当事者 2、家族 1

2 多職種による事例検討について

ア 参加して (良かった 29、まあまあ 2、あまり意味がなかった 0)

イ 具体的には？ 当事者のリアルな状況が分かった。
当事者の症状と困りごとが繋がった。
他の職種の意見が分かったなど。

ウ 当事者・家族が参加する方式をどう思いますか？ (良かった 21)
リアルさ、真剣みが違う。
メリット、デメリットがある。
当事者と医療者の立ち位置が気になる。
当事者・家族と医療者との通訳的存在が大事。

エ 他に、参加を呼び掛けた方が良い職種がありますか？
NS(複数あり) CP 教師 保健師 障がい支援事業所のケアワーカー
DR(脳外科、精神科、心療内科、神経内科、整形外科等)
(現在、呼び掛けているのは PSW、OT、ST、ケアマネージャー、相談支援専門員)

エ 平成29年度も継続した方が良いと思いますか？ (良い 27)

3 事例検討を通じて、

ア 高次脳機能障がい当事者の地域生活にはどのようなサポートが必要だと思いますか？
在宅生活に合わせたリハビリ、生活面からの通所リハビリ、
地域住民の理解拡大、身近な代弁者(サポーター)の確保、
過ごしやすい環境、相談窓口の整備

イ 同じく、家族には、どのようなサポートが必要だと思いますか？
サポートしてくれる友人、家族の交流、近隣の理解、
介護者のレスパイト環境、
苦しみをありのままに受け入れてくれるスタッフ

ウ こどもの高次脳障がいについて、学校教育の中で、どのようなサポートが必要だと思いますか？
教師の理解とそのサポート、友人・学校の理解、
該当者の状況申し送り、発達障害との共通性を踏まえた
専門的な教材、ユニバーサルデザインでの対応